

第 378 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 在宅聴取による遠隔開催
2. 番組聴取合評 [番組名] ミューグレ～music the great deep
[放送日時] 令和3年12月11日(土)及び令和4年1月15日(土)
6:30～7:00
[出演者] 梅田英春、村松健
3. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 委員 小野晃司 委員 山本りさ
委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
4. 番組審議
[番組名] ミューグレ～music the great deep
[放送日時] 令和3年12月11日(土)及び令和4年1月15日(土)
6:30～7:00
[出演者] 梅田英春、村松健
[番組内容] ジャンルや国を越え、無限に広がる音楽の大海原
“music the great deep”。二人の男が今日も音楽談義に
花を咲かせています
[聴取・合評での主な意見]

小野委員

■2021/12/11 放送分

早朝番組として重くならないよう軽やかな展開になっている。

1934年「小さな喫茶店」昭和の良き時代を振り返る意味（素敵な歌詞）をコメントしてから曲に入るため、リスナーに雰囲気を楽しんでいただける。

曲の途中にも音楽と喫茶店の結びつきを梅田さんと村松さんがお互いに納得しながら語り合うリズムもいい。樺坂46「ボブディランは返さない」も歌詞をかみ砕いて世代間を埋めている。

■2022/1/15 放送分

二人の掛け合いが音楽談義としてコンセプト「無限に広がる音楽の大海原」を番組として成立させている。どちらかという二人の声が似ているが結果的に気にしなくても聞ける。

ファイトソングを選んでいるのも受験シーズンという季節感があり良い。

聞いて「応援してもらおう」というより「自分を応援する」というコメントも納得できた。

二人が独特の世界観でトーク展開しているのは好感が持てる。

加藤委員

- ・音楽とその周辺の文化に関する知識・教養が深まる、番組名通りの内容をもった番組であると感じた。
演者2人の語りも落ち着いたトーンで、確かな知識に裏付けられた話の内容ともしっかり調和している。また各回、テーマを設けてそれに応じた選曲がなされている点も興味深く、さらにその選曲内容も、クラシックからポピュラーソングまで幅広い。音楽に関心のある人だけに留まらず、初めて聞く人にも楽しめる構成になっていると感じた。
- ・番組の導入となっている女性のナレーションの定型的な語りも、この番組のユニークさを象徴していると感じた（定型的な感じが逆に気になってしまい、何が始まるのかという良い意味での違和感がある）。またその後続く出演者2人の話題の入り方もスムーズであり、当日のテーマトークに上手くつないでいると感じた。また2人のやや砕けた調子の話し方も、2人の脇で楽しい話を聞いている雰囲気があって良い。
- ・「喫茶店」の回は、名曲喫茶の知識だけでなくノスタルジックな雰囲気も醸し出し、ある世代の人々にはとても共感できる内容であったと思う。また「応援ソング」の話題は、時事的な話題を取り入れながら上手くテーマを作っていると感じた。また各曲に合わせて話を広げていくのも、出演者2人の力量が出ていると感じた。
- ・直感的にこの番組のリスナーは、かなり強く固定したファンではないかと予想される。またその方々は、相当の音楽通であるか、音楽について学びたいといった、音楽ファンの方々が多いのではないかと。あるいは日曜日の朝に、この二人の出演者の雰囲気の中で音楽を聞きたい、というファンで、ラジオとの親和性も高いのではないかと考える。
- ・本番組のこうした内容は、近年、Youtubeでも盛んにアップされ若者の視聴も多い「教養ジャンル」的な動画のラジオバージョンではないかと感じた。また上述のように、かなりコアなリスナーとの接点もありそうである。そのため、ファン層との繋がりを上手く活用することは、何かしらのネットやリアルの取り組みとも連動するのではないかと。また各回テーマがあり内容もしっかりしているので、娯楽というだけでなく、音楽文化をめぐる「教養コンテンツ」シリーズとしての広がりが見られる内容を持っている番組だと感じた。

角田副委員長

①2021年12月11日（土）：

- ・冒頭で夏の話から入り、季節とそぐわない感があったが、エンド曲でこの問題が回収できていた。
選曲、曲の並べ方の妙が素晴らしい。
- ・世代の話が出ていたが、同世代のリスナーにとっては、当時の空間に触れているかのような感じだった。
「今の世代は画を観て、音を聞いていない」とあったが、その逆を体現させてくれる質の良いトーク展開だった。

②2022年1月15日(土)

- ・この番組のリスナー世代はどのあたりなのだろうか？共通試験を受験する世代がリスナーに多く含まれているのなら、今回のテーマは一見合っているような気がする。しかし、二人の世代に近いリスナーが多いのなら、受験生目線ではなく、子供と同じくハラハラしている親を元気づけて、子を受験会場に送り出させる展開の方がしっくりするように思う。どちらにしても、受験生世代が当日聞いている余裕はないので、彼らを元気づけるのなら、前週でもよかったかもしれない。
- ・この回も選曲、曲順がとても良い。

③全体的な印象について：

- ・二人の声質、話の掛け合いがとても心地よく、上質な時を過ごせる番組である。
- ・選曲も多様性に富んでユニークであり、他の音楽番組と一線を画している。
- ・ただし「番組企画書」に記してある「音楽談義」の解釈にもよるが、音楽的に何が素晴らしいのかというコメントは乏しい。「音楽空間談義」ということなのだろうか？トークへのスパイス的にほんの少しだけ、専門家として一言が欲しいと感ずることがある。
- ・土曜日の朝の番組であるが、夜ゆっくりとリラックスしながら聴きたいという思いも少しする。特に選曲テーマによっては、そのように感じる回がある。
- ・二人の組み合わせは肩が凝らず、ゆったりしていてとても良い。ただしリスナーの世代によっては、やがて聴き疲れが出る可能性もある。
- ・番組のはじめとおわりの女性の無機質な声質と話し方は、二人の声質や番組内容からすると、やや違和感がある。「サントリー・サタデー・ウェイティング・バー」のはじまりのそれを劣化させたような印象を与えてしまう。もう少し独自性を持たせるように改善の余地があると考え、番組が始まる、次回への期待というときめき感と欲しい。

木宮委員長

●大人向けの良質な番組という印象。スポンサーも複数ついており、長く続けていける内容である。過去には違うMCコンビであったと思うが、現在の2人の声質も心地よく、土曜日の早朝にふさわしい雰囲気である。当然ながら音楽に関する深い造詣がある二人であるが、一般リスナーに分かりやすい切り口で語ってくれるため、教養番組色は薄くバラエティ色もあって楽しめる。選曲もバリエーションに富んでおり幅広い層に受け入れられるのではないかと。マニアックになり過ぎずに、今ぐらいのスタンスで続けていくのがベストではないかと思われる。

会社サイド

前回(第377)回では掛け合いトークの展開力などを評価頂いた一方、トークテーマなどについてご指摘頂きました。今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 令和4年3月1日(火) 11:00~13:00を予定

以上

番組審議会委員長

木宮敬信

